

(別紙)

ダイオキシン類汚染土壌浄化技術等確立調査対象技術応募様式

1. 会社名
2. 浄化技術の名称
3. 浄化原理
4. 処理性能（土壌の処理前後のダイオキシン類及び副生成物の濃度、処理効率％、副生成物を含めた反応経路及び排出経路（物質質量を含めたフロー図を添付））
5. 処理可能なダイオキシン類濃度（毒性等量(pg-TEQ/g)）
6. ダイオキシン類又は類似物質の浄化試験の国内外の実績（対象物質、土壌の汚染程度、処理量、試験場所等）
7. 処理フロー概要（施設概要を記述、A 4 サイズのフロー図添付）
8. 処理能力（m ³ /日、t/日） ※実証調査に用いる予定の施設
9. 処理にあたっての土壌の条件（水分含量、れき、植物根茎の混入の是非）
10. ユーティリティー ※実証調査に用いる予定の施設 ○電力（消費電力kw） ○水（m ³ ） ○燃料（種類、量） ○薬品（種類、量） ○装置サイズ（高さ○m、幅○m、奥行き○m） ○装置の設置の簡便性、可搬性 ○その他
11. 装置稼働 ※実証調査に用いる予定の施設 ○人員（運転要員） ○資格（運転要員に必要な資格） ○留意事項（温度、圧力等）
12. 処理中の労働環境対策（爆発、漏洩、飛散防止等）
13. 処理中の周辺環境影響対策（処理方法、排出物中のダイオキシン類及び環境汚染物

質濃度（処理をする際の添加物を含む）及び周辺環境モニタリング計画等） ☐ 排ガス ☐ 排水 ☐ 処理残さ ☐ 騒音・振動等
14. 実証調査に要する経費 ☐ 総費用の内訳をt当たりで示すこと 〈内訳〉 ・ 装置の設置費、撤去費及び減価償却費 ・ ランニングコスト ・ 排ガス処理等の環境への二次影響防止措置に関する費用 ・ モニタリングに要する費用 ・ その他
15. 実規模施設での処理経費の試算 ☐ 総費用 最高濃度が10,000pg-TEQ/gの汚染がある10,000t程度の土壌を2年程度で浄化することとし、処理後の濃度を1,000pg-TEQ/g以下、100pg-TEQ/g以下、10pg-TEQ/g以下と想定した場合の総費用の内訳をそれぞれ示すこと。 〈内訳〉 ・ 装置の設置費、撤去費及び減価償却費 ・ ランニングコスト ・ 排ガス処理等の環境への二次影響防止措置に関する費用 ・ モニタリングに要する費用 ・ その他
16. 実証調査開始可能時期
17. 処理技術の特許の状況
18. 国や地方公共団体等からの請負（委託）又は補助金交付を受けている、受ける予定又は申請中のものがあれば、官公庁名等の機関名称、状況（受託・受給済み・申請中）、制度名、金額、本事業との相違点を記入。（ない場合はなしと記入）
19. 担当窓口（連絡先） ☐ 住所、担当部局、電話、FAX番号、電子メールアドレス ☐ 職名、氏名

（注） 1. 実証技術が複数ある場合は、それぞれ別様で作成して下さい。
 2. 必要に応じ、発表論文等の関連資料を添付して下さい。